

中1駿台学力テスト 出題のねらい【英語】

中学生になって最初のテストであり、今年度は、アルファベットなどの基本問題とやや難度の高い語い問題を含めた問題構成になっています。今年度から主語が一人称・二人称単数の一般動詞の文、否定文が範囲に加わりました。be 動詞の文との文の構造の違いを明確に理解しているかがポイントになります。

1 アルファベット・語い問題

(A) アルファベットと単語

アルファベットの大文字・小文字を区別して書けること、単語の知識と正しいスペルで書くことが要求される問題です。3は発音しない文字を答える問題です。

(B) 2つの語の関係に当てはまる語

この時期における単語の知識量の違いで大きく差がつく問題です。また、正しいスペルで単語を書く力も要求されます。

(C) 共通点がない語の選択

記号選択なので一見すると、易しそうな問題ですが、2は国名とその国の「～の/～人/～語」は「ドイツ」の場合は、間違えて逆に覚えてしまいがちなので、注意しましょう。

2 連立完成問題

2は、上の be 動詞の疑問文を下の英文では、一般動詞の疑問文にします。今後の英語学習の基礎となる問題です。3は上の英文の favorite 「大好きな、お気に入りの」から、下の英文の空所に入る語として like[love], much を答えさせる問題です。4は上の英文の「私は便利なスマートフォンを持っている」を下の英文で「私のスマートフォンは便利だ」という日本語に言い換えることができれば、空所に入る語は判断しやすいと思います。

3 書き換え問題

2は Who で始まる疑問文になりますが、who は単に「人の名前」だけでなく、「役職や間柄」をたずねるときにも使います。また、5は主語が you に変わると、それに伴って後の「手(の中)に」という語句も in your hand に変わることには注意が必要です。

4 対話文完成問題

1は A の名詞 teacher から空所②に動詞 teach が入ると判断します。3は A の my uncle's son 「私のおじの息子」から、空所⑤、⑥には your cousin 「あなたのいとこ」が入りますが、まず、日本語で「いとこ」が自分のおじ・おばの子供[息子・娘]のことだと置き換えて考える必要があります。5は B の「私は川の近くを走ります。」から、「あなたは日曜日の朝に何をしますか。」という疑問文になると考えて、空所⑤、⑥には you do が最も適切であると判断します。

5 整序英作文問題

2は「何の教科」という日本語から、What subject で始まる疑問文にすることができるかがポイントです。3は、この4問の中で最も難問で、「私の妹はあまり上手な(1人の)ピアニスト[ピアノ奏者]ではない。」と日本語を置き換えて考える必要があります。

6 発音問題

発音・アクセントに関する問題は、ふだんあまり対策がなされていないという理由からか、多くの受験者が苦手としています。中1の段階から発音記号を覚えて、単語を正しく発音する習慣を身につけておきたいところです。また、(B)のアクセント問題の1は、日本語とはアクセントの位置が異なる発音をするので、注意が必要です。

7 対話文読解問題

東京に住むイギリス人のメアリーがある日、道に迷い、偶然通りかかった京都出身の大学生のケンに話しかけたことから始まる対話文です。問3の適語補充(同意文完成)については、**4**の1と同じタイプの問題です。この問題は一般動詞の文を be 動詞の文に書き換えた内容になるので、2つの空所には、are と speaker がそれぞれ入ります。問4の(5)の疑問文は今、現在していることではなく、相手の職業や身分を尋ねるときに使います。問6の内容説明は、メアリーの「私は京都が大好きです。」の後に書かれている内容を指定の字数の日本語にまとめます。「祇園祭り」など「祭り」に関することはこれより後の部分で書かれているので、ここでは触れないようにしましょう。

中1駿台学力テスト 出題のねらい【数学】

- 1 計算力の確認をしています。(1)では、正負の数の四則計算、(2)では分数の計算、(3)では分配法則、同類項をまとめる文字式の計算、(4)では分数の文字式の計算の確認です。特に(4)では右の分数の分子第2項の符号を間違えないかを試しています。数学力の基礎の一つは計算力であるから、この時期に正しい計算法を身に付けることは必要不可欠です。
- 2 (1)正負の数の大小関係を正しく理解しているかを確認しています。(2)ある量を基準の0として、他の量を正負の数で表すことを理解しているかを確認しています。また、本問は普通に平均値を求めるよりも、仮平均の考え方をを用いて平均値を求めた受験生に時間的な有利が生じることも狙っています。(3)角度を文字式で表すことができるかを試しています。(4)積の正負の決まり方、2個以上の文字の積をひとかたまりと考えること、等を用いて少し長めの推論ができるかを試しています。さらに、このような小問で解法が思いつかなかった場合、いったん保留にして次に進むことも受験をする上で必要であることも確認させたいことの一つです。
- 3 (1)は、問題の意味を理解できれば容易な問題です。(2)は、最終的な位置は目が出た順番に依存せず、出た目の組合せだけで決まることが理解できているか、また、目の数の合計を正しく計算できるかを確認しています。(3)見通しを立てずに探そうとすると正しい組合せを発見するまでに時間がかかる可能性があります。本問では、場合分けをしながら効率的に探すことの重要性を理解させたいのが狙い입니다。

4 (1)では、問題文を丁寧に読み込むことが必要です。

- ① (自然数 a, b の積の一の位の数) = $\{(a \text{ の一の位数}) \times (b \text{ の一の位の数})\}$ の一の位の数が理解できるか
- ② $4^m = 4^{m-1} \times 4$ であることと①の事実を利用して、 4^m の一の位を求めることができるか
- ③ ②の推論を続けて規則性を発見し、その規則性を利用して 4^{2022} の一の位の数を正しく求めることができるか。

(2)では、(1)の考え方を7にも応用できるかを試しています。7の場合は4個周期なので、4で割ったときの余りで分類できるかも確認しています。

(3)では、百の位を求めるには下3桁の規則性を利用すれば良いことに気づき、(1)の考え方を下3桁に応用できるかを試しています。小問どうしが密接に関連しているので、それらの関連性にも気を配ることを理解させたいのも狙いの一つです。

5 (1)は、立方体を並べる規則を理解し、 $1+3+5+7+9$ を計算するだけです。

(2)は、(1)で求めた25が平方数であることに気づき、さらに、1番目は1個、2番目は4個、3番目は9個、4番目は16個であることから、1から連続する n 個の奇数の和が n^2 であることに気付けるかどうかポイントです。今回もし気付けなかったとしても、今後のために覚えておきたい規則です。解説の方法で図形的に理解するのが簡単です。

(3)は何の見通しも立てずに面の個数を数えると間違いやすいです。本問のような立方体を積み重ねて作った立体は、面を向いている方向ごとに分けて数えると間違いにくいです。本問を通じて丁寧に数える技術を身に付けて欲しいです。

6 (1)は、問題文の意味が理解できているかを確認しています。(2)(i)は、 x と y の和が一定であることから、 y を最大にするには x を最小にすればよいこと、 x を最小にするには $a=c=e=1$ とすればよいことに気付けるかを確認しています。

(2)(ii)は、高度な応用問題として出題しました。いろいろな解き方があると思いますが、論理的に解けていればどんな方法でもかまいません。ただ、直感的に何となく正解しただけならば、その値が最小値であることを論理的に確認しておくことが、今後の数学力を伸ばすためにも大切です。

中1駿台学力テスト 出題のねらい【国語】

中学生最初のテストということで、基礎的内容を中心に、これから何度も受けることになるテストの答案をいかに作っていくか、その練習的な位置づけとして出題しています。

㊦ 漢字の読み書き

中学生になって初回の学力テストであることを考慮し、基礎的な漢字からの出題としました。(2)のような訓読みの書き取りや(8)の読みについては、ミスが頻繁に見られるので注意が必要です。

㊦ ことばの知識・用法

ことばについてのさまざまな基礎知識は、国語力の根底をなすものと言えます。今回の出題は、それらの知識の中の一部を問うものに過ぎませんが、ことばの知識は少しずつ確実に習得していく必要があります。ことばの知識を広く習得していくことで、読解力・表現力・ひいては作文等の論述力など、総合的な国語力を確実に伸ばして行ってほしいです。

㊦ 随筆文の読解 かこさとし『未来のだるまちゃんへ』。

わかりやすい例を挙げながらの論展開で、少し難しめのテーマであってもしっかり読み取ることができる内容の文章を採択しました。日常生活の中では中学生があまり使わないと思われる言葉も出てきますが、それらについても[注]を活用しながら丁寧に読み進める力があるかどうかを確認してほしいです。設問は、前後の流れだけで答えが出せる基本的な問題から幾つかの段落にまたがる流れの読解が必要な応用問題まで、バランスを考えて設定しました。問二・問五で得点をあげることができていれば素晴らしいです。

四 論説文の読解 松岡享子『子どもと本』。

日常生活に比較的關係の深いテーマを扱った文章からの出題としました。今後少しずつ抽象度の高い文章の読解へと進んでいく順路の中での、最初のステップという位置付けであります。今回の設問中、特に結果に着目してもらいたいのは問二と問七。問二は指示語の内容を押さえるだけの基本問題ですが、それを指定字数ありの記述問題にすることで、読解力と表現力両方の有無をチェックできます。本文中のどこをまとめればよいかがあったうえで、その中のどの要素を答えの中に残すべきかを見極める力が試されています。また問七は、紛らわしい選択肢をどう排除して正答にたどりつけるか、これもことばのニュアンスを捉えながらの丁寧な考察が求められる設問です。いずれの問いも、各自の現時点での力を知り今後の学習への目標を定める、バロメーターとして利用してほしいです。

以上